

花炭の作り方

・花炭って何？

松ぼっくりやどんぐりなどの木の实や葉っぱを材料にして作った炭のこと。

素材そのままの形で炭になり、美しい見た目から「飾り炭」とも呼ばれ、観賞用に使われています。

☆花炭の用途

多孔質である炭は表面積が大きい。

簡単に言うと孔(生きていた時の水分が通っていた管)がいっぱいあるから、空気に触れている部分がたくさんあるっていうこと。

1gの炭(ピーナッツくらい)の表面積はテニスコート1面分らしい。この広い面で吸水 や吸着作用が働いているから、脱臭、湿度調整、水質改良の効果がある。

花炭をインテリアとして飾っているだけで、目に見えない効果が得られる。

・用意するもの

①熱源

- ・焚き火 場所と時間が可能なら一番おススメ。炭素循環の説明もしやすい。
- ・カセットコンロ 準備も取り扱いも一番簡単。
- ・キャンプ用バーナー 軽量なので持ち運び可能。ガスボンベがやや高価。

②空き缶

- ・材質はブリキかスチール。アルミは溶ける。プリントや塗装があると燃やした時に臭いので注意が必要。大きさはゆったりと材料が並べられる程度のものを。蓋はしっかり閉まるものがないがなければ二重にしたアルミホイルで代用できる。

③その他

- ・釘と金づち 蓋の空気穴開け用。長さ5cm程度。
- ・針金とペンチ 蓋が緩い場合、加熱中に蓋が外れるのを防止するため縛る。
- ・つまようじ 冷却時、空気を遮断するために蓋の穴にさす。
- ・軍手 焚き火用のもの。ゴム製はダメ。
- ・火ばさみ 熱くなった缶を掴むときがあると便利。
- ・花炭を飾る小箱など

・素材選び

基本的になんでもできる。

ただし、乾いたものの方が短時間で上手にできる

- ・簡単 20分 松ぼっくり、クルミ、ハスのはながら、厚手の葉っぱ、小枝
- ・ちょっと時間が掛かる 30分 どんぐり
- ・難しい(時間が掛かる) 果実、花、昆虫
- ・できるけどくずれやすい 枯れた葉っぱ、セミの抜け殻、枝についた木の实



・作り方

<p>step1 空き缶の蓋に釘で穴を空ける</p> <ul style="list-style-type: none">・穴の大きさはつまようじの太さ(1mm)・蓋の大きさにもよるが目安 3~5cm間隔で	
<p>step2 材料を詰める</p> <ul style="list-style-type: none">・材料同士がくっつかないように。重ねるのもおすすめしない。・同じような水分量のものでそろえる。・詰めすぎないように。	
<p>step3 熱源にかける</p> <ul style="list-style-type: none">・中火くらいをキープ	
<p>step4 煙観察</p> <ul style="list-style-type: none">・煙の量や色の変化を観察。・穴から出る煙に火が付くことがあるけど無視して大丈夫。・透明~青味かかった煙になってきたらそろそろ出来上がり・煙がでなくなったら過熱をやめ、蓋の穴につまようじを挿し、空気を遮断	
<p>step5 飾り付け</p> <ul style="list-style-type: none">・しっかり冷えたら花炭を取り出す。熱いうちにあけると再び燃えだす。・そっと取り出す。どれも壊れやすくなっている・飾り付け <p><例>小箱、瓶、かご、木の板に貼り付ける、紐でモバイル風に</p>	